

## 車いす技術研修会開催

平成12年2月15日(水)から17日(金)までの3日間、当技術研究所において車いす技術研修会を開催した。今年度は「車いすの特性評価」と題し、車いすクッション、車輪に関する講義および実習を行った。

### 1. 研修会初日(講義:3題)

初日の講義は、自転車、車いす業界のみならず、他業界からの参加もあり当研究所の講習室が満席状態となった。講義は3題で、車いす開発室長・高橋より「車いすの規格と評価方法」について、神奈川県リハビリテーションセンター・沖川悦三氏からは「車いす用クッションの特性」について、そして、ナショナルタイヤ・尾谷昌彦氏からは「車いすタイヤの種類と特性」についてである。午前、午後と長時間にわたる講義であったが、参加者は熱心に講師の発表を聞き、メモをとっていた。その後参加者は、様々な質問を講師に問いかけ充実した研修会初日となった。



### 2. 研修会2日目、3日目(実習:3テーマ)

2日目以降の実習は、21名の実習生が7人ずつ3班に分かれ「シートクッションの物理特性」、「車いす用車輪の物理特性試験」、「キャストの物理特性試験」の3テーマにそれぞれが取り組んだ。シートクッションの物理特性試験では、シートクッションの沈み込み量測定および落下衝撃力測定試験を、車いす用車輪およびキャストの物理

特性試験では、材質の異なる車輪、タイヤ等で段差乗り越えを行った場合の衝撃加速度測定試験を実施した。はじめは戸惑いながら実習を進めていた実習生も、互いに協力し合い実習時間が余ると、プログラムされた試験条件以外の試験を進んで行っていた。



### 3. 参加者から

講義では、車いす評価に関するISO、JIS、SG等の今まで理解しにくかった内容がよく理解できた。また、クッション、タイヤ特性については今後の作業の中で有効に活用できる知識として理解することができた。特に、製品カタログによるタイヤサイズの見方と選択方法については、多くの参加者が興味を示した。実習では、これまで感覚でしか判断できなかった部品の特性等について定量的に理解することができてよかったとのことであった。そして、これらの経験を今後の仕事、臨床場面で生かしたいという意見が挙がった。

車いす技術研修会に対する業界の強い要望から、前回同様募集人数を超えた参加者となったが、真剣な取り組みが行われ充実した3日間となったようであった。しかし、今回も多数の企業からの実習参加希望があったが、受け入れ人数にも限界があり、実習参加をお断りした企業に対してお詫び申し上げます。